

る名なり、飲は佐氣とも云は、亦名にて、縣居大人の説に、酒を、佐氣とも云は、是を、加美は上なり、
 略○中さて少名毘古那神を如此稱し賜ふは、此神殊に酒を掌賜ふ事は物に見えざれども、大穴
 牟遲神と相並ばして、國土を作堅め給ひ、略○中凡て萬の事も物も此二柱神の恩頼なれば、略○注
 書記崇神卷にも、天皇以大田田根子令祭大神、是日活日自舉神酒獻天皇、仍歌之曰、許能瀨枳破
 和餓瀨枳那羅孺、椰磨等那殊、於朋望能農之能、介瀨之瀨枳、伊句臂佐、伊句臂佐、如此歌之、宴于神
 宮ともある如く、酒の本を此二柱神に係て、其首長たる神の獻り賜ふ御酒ぞと、よみ賜へるな
 り、以上千と云り、此考宜く聞ゆ、中略契沖は、奇の神なりと云事を、師は、奇は用語なれば、之と云
 り秋考は云はぬことぞ、又藥の神と云むも然ることにて、正しき由あり、此は御酒を祝て詔ふなれば、
 殊に由ありておほゆ、然はあれども、神の假字に美を用ひたる例なれば、なほ上の千秋の考
 ふに從、

〔古事記雄下略〕天皇坐長谷之百枝槻下爲豐樂之時、略○中天皇歌曰、毛志紀能、淤富美夜比登波、宇豆

良登理、比禮登理加氣氏、麻那婆志良、袁由岐阿閉爾、爾波須受米、宇受須麻理、韋氏、祁布母加母、佐加美

豆久良斯、多加比加流、比能美夜比登、許登能、加多理基、登母、許袁婆、

〔古事記傳四十二〕佐加美豆久良斯は、萬葉十八十一に、多知婆奈能、之多泥流爾、波爾等能、多氏天

佐可彌豆伎伊麻須、和我於保伎美可母、又卅佐加美都伎安蘇比奈具禮止云々、十九卅九に、酒見

附榮流、今日之安夜爾、貴左などもありて、宴樂のことなり、略○中又思ふには、神名帳に、造酒司坐

酒殿神二座、酒彌豆男神、酒彌豆女神、姓氏錄酒部公條に、大鷦鷯天皇御代、從韓國參來入、兄曾々

保利、弟曾々保利二人、天皇勅有何才、白有造酒之才、令造御酒、於是賜麻呂號、酒看都子、賜山鹿比

咩、號酒看都爲氏、略○注などある酒美豆は、卽酒のことにて、然云意は、榮水なるべし、さて其を佐

氣とのみ云は、水を省たる名なるべし、師云、酒と云名は、榮と云ことなり、是を飲めば、心の榮ゆるよしなり、

〔延喜式八祝詞〕祈年禁